

第4回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概 要)

先般開催した、令和4年度 第4回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和5年3月 14 日(火) 14 時 30 分～16 時 30 分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 主な意見等

- 森林組合では、現在主伐事業を中心に順調に実施している。運材も順調で、山土場の原木在庫は多くない。材の受入状況は道内外問わず合板材が振るわない中、一部受入調整を行っている。製材工場向けのカラマツが結果的に増えており、各工場の在庫は積み増したが、今まで原木不足で推移してきたことから各工場はある程度積極的に買っている。一方トドマツは、一部の地域で入荷調整や単価も若干弱含みで推移している。一部ではカラマツが不足しているため、トドマツとの併用を進めている。チップ工場やおが粉工場は原料確保が厳しく先々にかなり不安がある。
- 春先から原木価格が崩れると予想していたが、現在も比較的高値で安定しており、しばらく続くと思われる。原木価格が下落していない、燃料費の上昇等の理由から、製品の価格をなんとか維持している状況である。4月以降については悲観的な声もあるが、そこまで悲観的に考えなくても良いという気がする。集成材工場は、製品価格が非常に安く、現在の原木価格では採算が取れず、生産調整している工場が多い。広葉樹について、先月からナラの価格が上昇し、タモ、ニレ、センもやや価格が上昇している状況である。
- 素材生産の請負事業について、工期がほぼ2月で完了している。例年4月は林道状況が悪く、運材が止まるが、雪解けが早ければ素材生産請負事業の発注も出始めているので、4月以降も先行きが良いと感じる。需要は大きくないが、最近のアウトドアブームで薪の販売等が増えており、様々なところで薪が足りないと聞いている。
- 移出合板材について、今期は 4 月から2月まで前年度と同様約 31 万 m^3 だが、前期は前年度比 112%の一方、後期は約2割落ちており、特に 10 月以降が大きく落ち込んでいる。東北、本州の合板メーカーの在庫置き場は満杯で製品の減産をしている。プレカットの商況は低調で、4月以降も木材以外の住宅資材の値上がりのため、引き続き厳しい状況が続く。輸入製材について、ラワン合板価格の大幅な下落で、今後国産材より約1割安く国内に入ってくるため、丸太価格に大きな影響が出ると予想される。今後の輸入材の動向について、欧州の丸太が不足しており、秋口以降また木材が足りなくなるという局面も出てくるかもしれない。

- 令和4年度の道有林の立木販売の状況について、総販売見込量は 576 千^mと、計画量に対し 102%の見通し。令和 5 年度は、前年度と同量の 567 千^mを計画している。地域における木材需要の把握に努め、適切な時期に立木販売を行うことで、原木の安定供給に取り組んでいく。
北海道で実施している木材の市況調査について、エゾマツ・トドマツは概ね順調に入荷している。一方、カラマツは在庫不足が続いている。製材について、エゾマツ・トドマツは建築の動きが悪く需要が低下しているため、更に引き合いが弱まることを懸念する声も聞かれる。カラマツの梱包材、パレットは落ち着き傾向が見受けられ、今後の受注減少を懸念する声がある。
- 令和5年度の製紙工場の生産量は今年度並みか、4月以降の紙の再値上げにより若干下がる程度で計画している。原材料が不足しており、原料調達の方策を考えなくてはならない。原材料の価格も上がっており、3 月旭川の素材の公売では 11,000 円を超えるなど、毎月千円ずつ上がっている状況で、チップ工場が休業しなければならなくなる状況になるかもしれない。4月以降請負生産が終わった事業者の出材に期待したい。
- 自社のトドマツの製材工場では、コロナ以降安定して生産していたが、ここ最近は製品の動きが今まで経験した中でも一番二番くらいに悪く、生産調整しながら何とか我慢している状況である。来期の計画を立てる時期だが、予測が立たず、いつ回復するかわからない。
ゼネコンや大手メーカーが国産材に移行する動きは間違いなくある。一方、国産材へシフトする量が、北海道に関しては供給できる量に対して需要の方が強くなると考えている。民間の出材が価格に影響されることがあったため、国有林材は安定的に供給していただきたい。早く北海道も回復することを期待し、それまで我慢しながらやっていきたい。
- カラマツ業界の現状について、3 月に入り受注が急速に減っており、一週間あるかないかという工場が多い。仕事の落ち方が従来よりも早い感覚で、4月以降を心配している。住宅需要が激減し、製材工場の仕事が減った分、梱包パレットに食い込んできている。定尺材の取り合いが起きているため、定尺材主軸の工場は仕事が減少しやすい印象である一方、手間のかかるものは受注が減っていない。丸太の価格上昇によりコストが大幅に上がっているため、いかに製品価格を下げずに使っていくかが課題となっている。現在市況は良くないが、カラマツの価格が下がるとカラマツの民材が出づらくなり、総量確保のためカラマツ材を求める動きが出てくる可能性もあるため、国有林材については現時点で供給調整の必要はないと考える。
- 自社のバイオマス発電の原材料の在庫について、ウッドショック前は半年切ったものの、ウッドショックで1年分が増えたが、現在は約7ヶ月分と再度原材料が集めづらくなっている。集荷の範囲を増やすため、新たな土場等を検討している。4月から電気代が2~3割上がり、経費が更に増える。電気代の高騰により、薪やペレットストーブに換える一般家庭があり、ペレット需要が増えてきている。薪はナラ材の価格が高騰し、集めづらい。CLTは他の工法に比べてコストが高いため、環境問題や施工性を考え、コストの縮減を検討している。森林資源の活用は世界的な評価の1つのため、大手ゼネコンと林業業界でうまくタイアップをすると、木材の需要は更に高まると考えている。